

第7章 自然災害に対する取組

第7章 自然災害に対する取組

近年、国内で地震や津波等の大規模な自然災害が起きている。本県でも行政として様々な対策をすることはもとより、県民の注意喚起などにも力を入れていかなければならない。本章では、地震・津波等の大規模な自然災害に対する取組や考え方について県民の意識や実態を明らかにする。

1. 自然災害に対する取組（問 14）

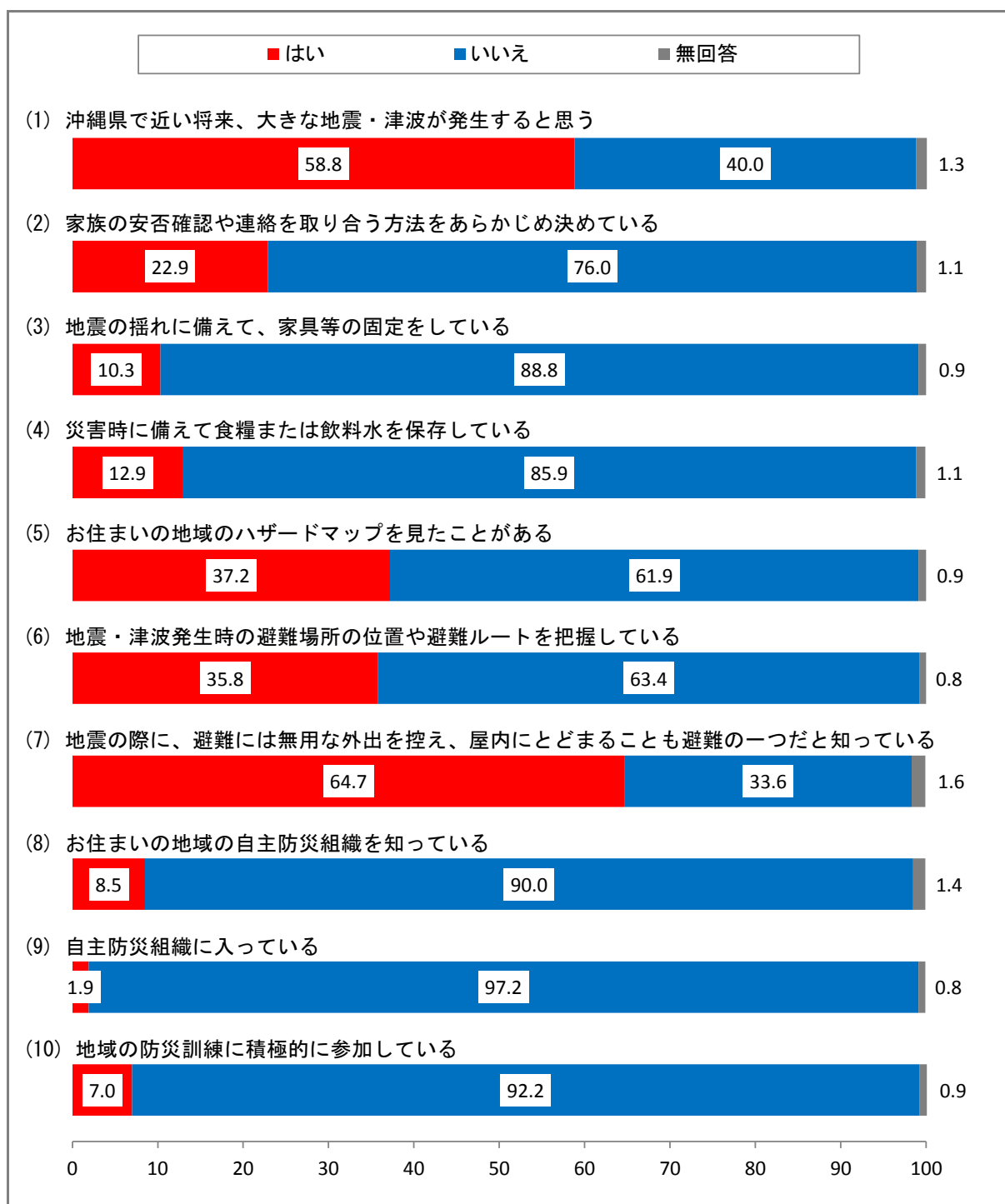
本設問では、地震・津波等の大規模な自然災害に対する取組や考え方について 10 項目を挙げ、「はい」「いいえ」で答えてもらった。

質問した 10 項目は、「沖縄県で近い将来、大きな地震・津波が発生すると思うか」「家族の安否確認や連絡を取り合う方法をあらかじめ決めている」「地震の揺れに備えて、家具等の固定をしている」「災害時に備えて食糧または飲料水を保存している」「お住まいの地域のハザードマップを見たことがある」「地震・津波発生時の避難場所の位置や避難ルートを把握している」「地震の際に、避難には無用な外出を控え、屋内にとどまることも避難の一つだと知っている」「お住まいの地域の自主防災組織を知っている」「自主防災組織に入っている」「地域の防災訓練に積極的に参加している」の 10 項目である。

(1) 大規模な自然災害についての取組や考え方

「はい」と答えた人が多かった順に列記すると、「地震の際に、避難には無用な外出を控え、屋内にとどまることも避難の一つだと知っている」(64.7%) が最も高く、次いで、「沖縄県では近い将来、大きな地震・津波が発生すると思う」(58.8%) となっていて、この 2 項目が 5 割を超えている。次いで、「お住まいの地域のハザードマップを見たことがある」(37.2%)、「地震・津波発生時の避難場所の位置や避難ルートを把握している」(35.8%)、「家族の安否確認や連絡を取り合う方法をあらかじめ決めている」(22.9%)、「災害時に備えて食糧または飲料水を保存している」(12.9%)、「地震の揺れに備えて、家具等の固定をしている」(10.3%)、「お住まいの地域の自主防災知識を知っている」(8.5%)、「地域の防災訓練に積極的に参加している」(7.0%)、「自主防災組織に入っている」(1.9%) の順となっている。

図 7-1-1 大規模な自然災害についての取組や考え方 (%)

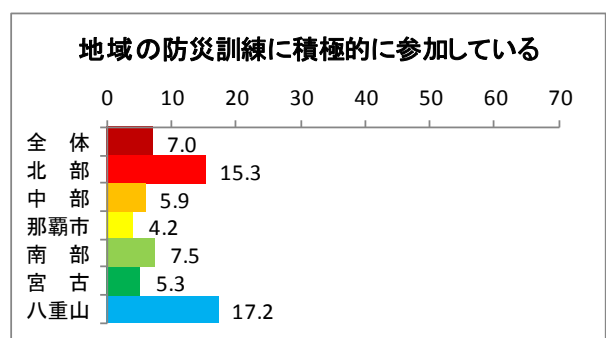
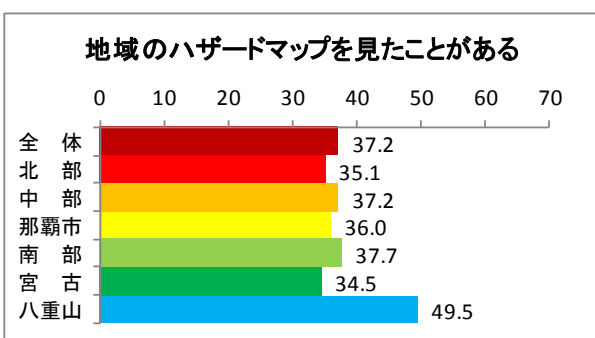
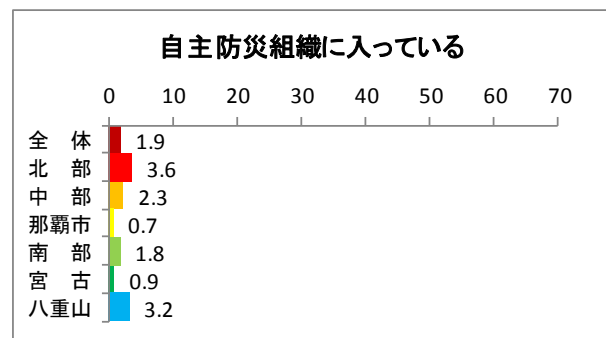
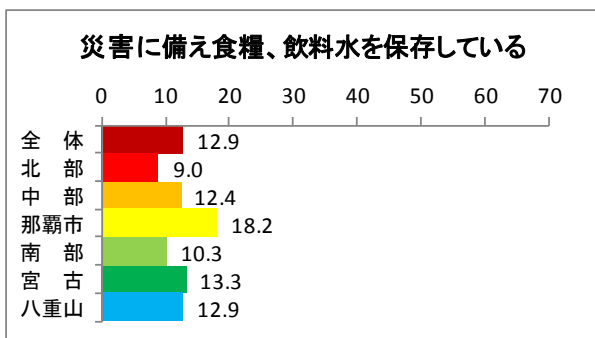
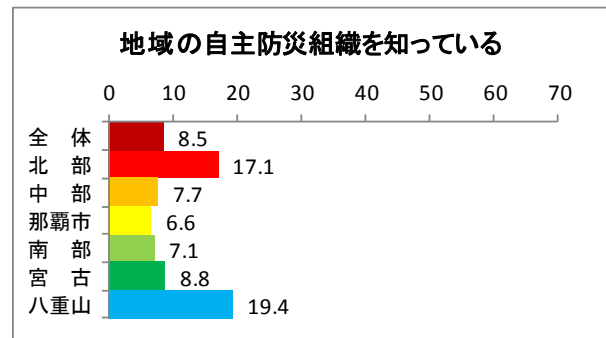
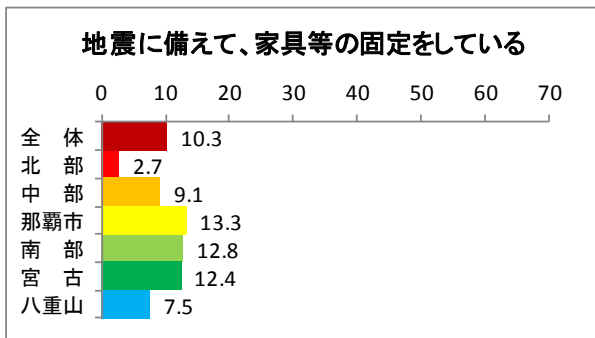
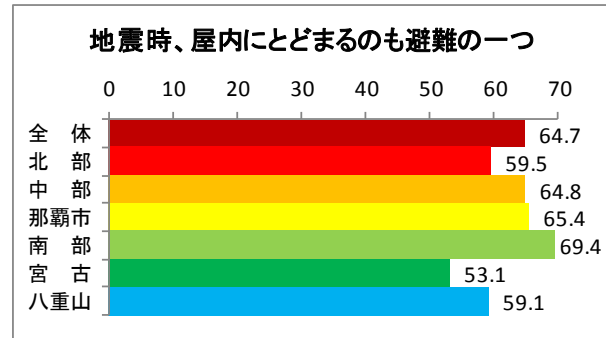
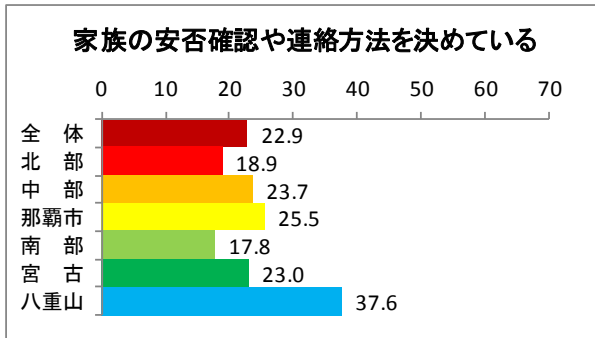
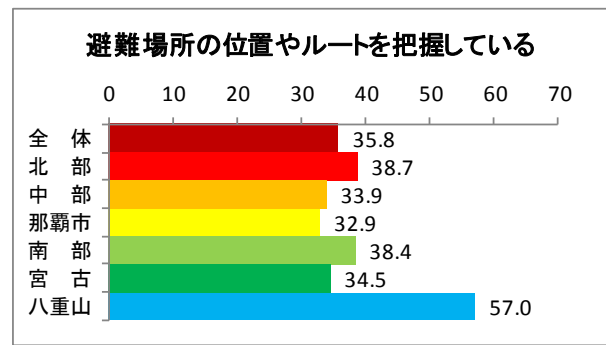
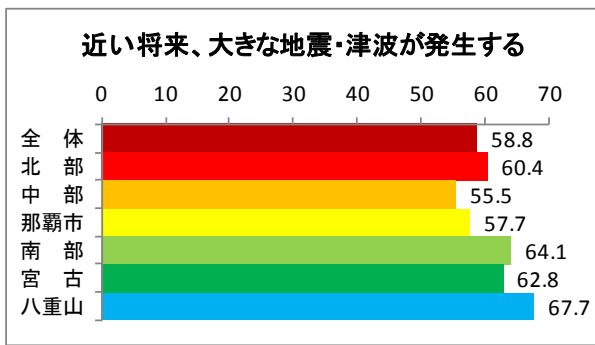


(2) 地域別で見た大規模な自然災害についての取組や考え方

地域別に見ると、「近い将来、大きな地震・津波が発生する」「家族の安否確認や連絡方法を決めている」「地域のハザードマップを見たことがある」「避難場所の位置やルートを把握している」の4項目は、八重山の比率が特に高くなっている。また、「地域の自主防災組織を知っている」「地域の防災訓練に積極的に参加している」の2項目は、八重山と北部の比率が特に高くなっている。

このほか、「災害に備え食糧、飲料水を保存している」は那覇市が他の地域よりも高くなっている。

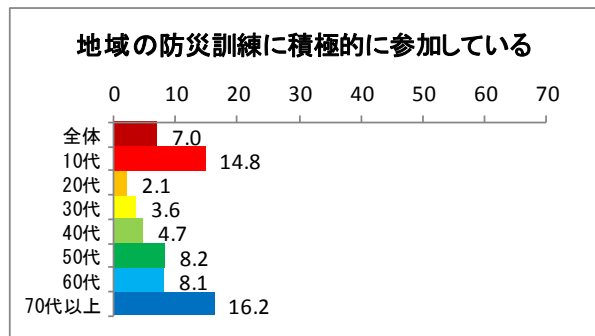
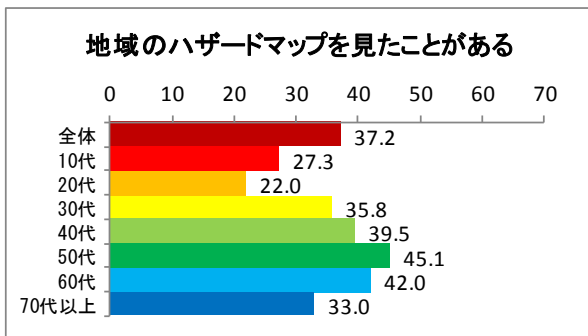
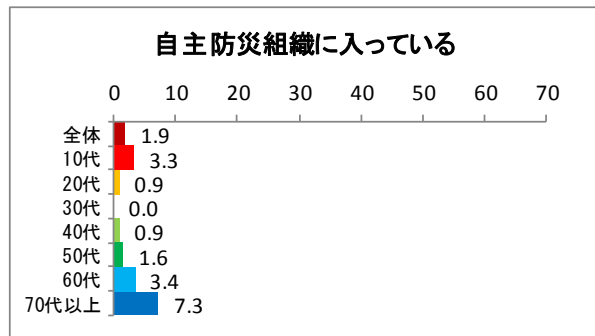
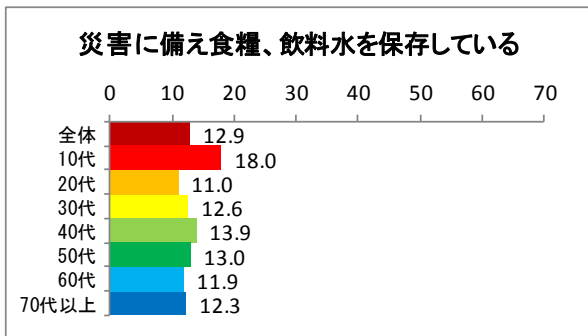
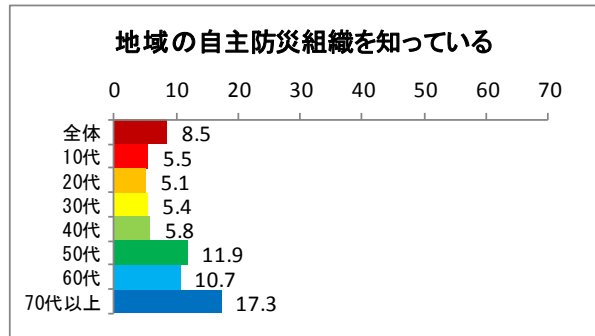
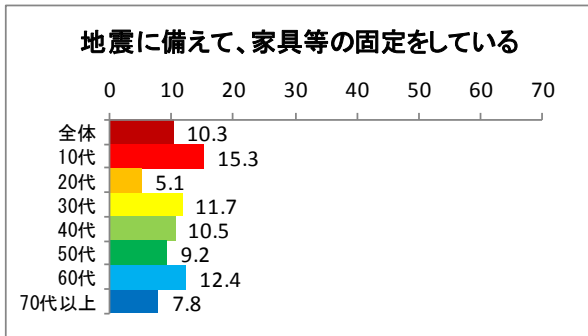
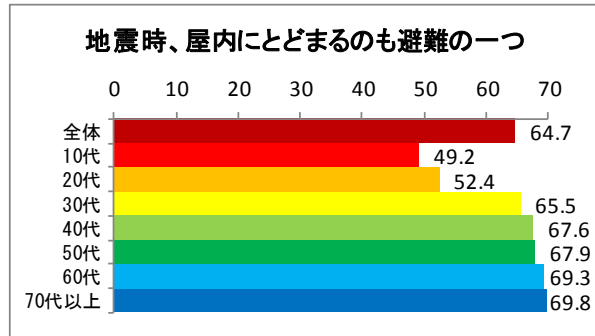
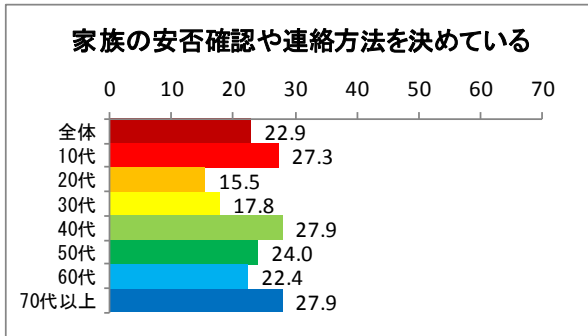
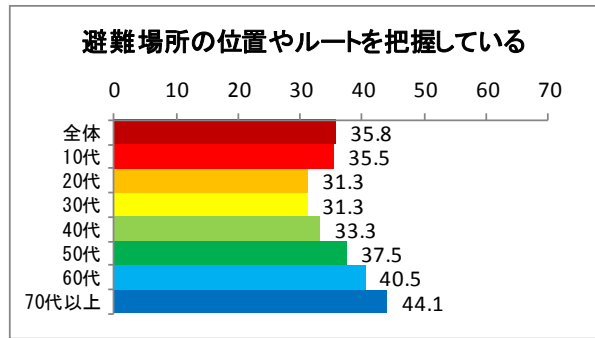
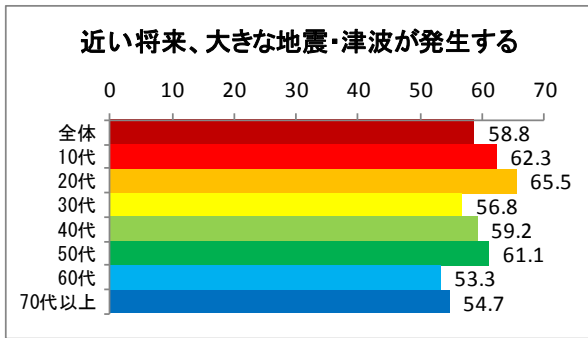
図 7-1-2 地域別 大規模な自然災害についての取組や考え方 (%)



(3) 年代別で見た大規模な自然災害についての取組や考え方

年代別に見ると、「家族の安否確認や連絡方法を決めている」は、10代、40代、70代以上が3割弱と他の年代より高くなっている。「地震に備えて、家具等の固定をしている」「災害時に備え食糧、飲料水を保存している」は、10代が最も高くなっている。「避難場所の位置やルートを把握している」は、70代以上が4割強と最も高く、10代を除くと、年代が上がるほど増加する傾向にある。「地震時、屋内にとどまるのも避難の一つ」は20代以下では5割前後になっているのに対し、30代以上で6割台後半と高くなっている。「地域の自主防災組織を知っている」は、70代以上が2割弱と最も高く、50代、60代でも1割を超える。「自主防災組織に入っている」「地域の防災訓練に積極的に参加している」も70代以上が最も高く、次に10代が他の年代より高くなっている。

図 7-1-3 年代別 大規模な自然災害についての取組や考え方 (%)



(4) 性別で見た大規模な自然災害についての取組や考え方

性別に見ると、「家族の安否確認や連絡方法を決めている」は、女性（25.7%）のほうが男性（20.0%）よりも高くなっている。一方、「地域のハザードマップを見たことがある」は、男性（38.9%）のほうが女性（35.6%）よりも高くなっている。その他の項目では、男女の差はあまり見られない。

図 7-1-4 性別 大規模な自然災害についての取組や考え方（%）

